

地方における緊急検査に関する研修会の現状と課題

◎中村 政敏¹⁾
鹿児島大学病院¹⁾

【はじめに】

私が所属している日臨技九州支部はコロナ禍の前は毎年夏に認定救急検査技師指定講習会が福岡で開催されており、毎回100名近く参加して非常に救急検査分野に熱い地域であります。緊急検査、救急検査として皆様が思いつくのは何でしょうか。日当直で多くの施設で実施するのは生化学、感染症などの免疫検査、尿一般、血液ガス、POCT(イムノクロマト検査含む)、心電図検査輸血検査などであり、幅広い分野であることは明白です。緊急検査部門がない地域がどのようにこの分野を研修しているかを私が所属する九州支部および鹿児島県臨床検査技師会を例に現状と課題を説明します。

【鹿児島県において緊急検査、救急検査分野を履修するには】

鹿児島県で救急検査、緊急検査という幅広い分野を研修するには、各学術部門を履修しなければならない、結局のところ全学術部門の研修会に参加して少しずつ履修する必要があります。私が所属する生物化学部門の研修会も年間の研修会の中で1回は生化学分野、免疫分野での基礎や緊急検査に関すること(血液ガス含む)を実施するようにしています。広く学ぶために鹿児島県では全学術部門を網羅的に学ぶために、スキルアップ研修会にて血液ガスをメーカーに講師依頼し、各分野の基礎的な部分を分野長に講義していただいたこともありました。最近では九州支部の卒後セミナーの講演内容でもPOCや緊急検査時のデータの見方を盛り込むことで救急検査、緊急検査時のスキル向上ができるようになってきました。ただ、研修会の内容は各学術部門によっては専門的な講演が多く、基礎的な部分までカバーできていない学術部門があるのも現状です。

【地理的な課題について】

鹿児島県は各学術分野の研修会を実施する鹿児島市の他に北薩、南薩、大隈・鹿屋、霧島・始良、離島を含む大島地区の6地区が存在しており、特に大島地区などは研修の場が少ない上に、卒後セミナーを含む各学術分野の研修会に参加しようとすると移動距離も費用も膨大になります。コロナ禍でZoomという素晴らしいWebツールが誕生し、離島の会員も研修会への参加は容易となりましたが離島と中央の距離は近くなったものの、まだWebツールに慣れていないことや以前の現地開催より研修会自体が少なくなっているのが課題であり、全部門を網羅的に学ぶことが難しくなっております。

【今後の展望】

そこで救急検査、緊急検査に特化する学術分野があったらという視点で考えてみました。年に数回、各専門分野から基礎的な部分だけを抜粋して緊急検査、救急検査に特化した研修会は非常に魅力的で、特に卒後教育にも十分役に立つと思います。年に数回のZoom研修会であれば離島の会員にも移動費用がかからず、幅広い分野を一遍に学ぶことが可能です。専門的なスペシャリストではなく、全分野を浅く広い知識を持つジェネラリストの育成は鹿児島県にとっても不可欠であります。以上のことより鹿児島県臨床検査技師会でも今後、緊急検査、救急検査に特化した部門(総合管理部門の一分野?)の立ち上げを目標にして、救急検査分野に熱い九州支部を盛り上げられるように努力していこうと思います。

(連絡先: 099-275-5561)